

交流会の報告

佐藤 研 一 (さとう けんいち)

福岡大学工学部 教授

1. はじめに

第49回地盤工学研究発表会北九州大会の交流会に参加頂いた皆さんにこの場を借りましてお礼申し上げます。

2. 交流会の新しい取り組み

2.1 交流会コンセプト

第49回地盤工学研究発表会における交流会では、正会員と学生会員の交流の場を設けることを大きなコンセプトとし、交流会部会を中心に企画を進めました。

毎年交流会には、約300名の大学の先生をはじめ、地盤工学に関連する企業の方々が参加されておられます。この交流会に学生会員に参加してもらって、学生同士の交流はもちろんのこと、交流会参加の正会員の方々と交流できる場を設けることとしました。地盤工学研究発表会には毎年多くの学生が参加してくれています。しかしながら、毎年の交流会には学生の参加者はほとんど見られません。多くの学生たちは先生が交流会に参加する中、同じ研究室の学生と街の居酒屋で飲んでいることがほとんどだと考えられます。せっかく全国から同世代の学生達が集まっているのに学生同士が交流する場はありません。そこで、交流会に学生たちの参加を促すことによって、大学間の交流はもちろんのこと、発表会で質問を受けた先生や企業の方々との議論、内定が決まっている学生会員は、就職先の方々との交流、これから就職活動をする学生会員は、就職活動に伴う情報収集、さらには3日目の学会発表会に向けての情報収集などができると思います。そして何より、この機会を通じて地盤工学会の良さである人との繋がりを体験し、学会のことを知って欲しいのが大きな狙いです。

学会会員の減少が進む中、学生会員の方々が地盤工学会の良さを認識して、社会人になった後も会員を継続してくれる大きな機会になることも目的としました。

2.2 ダンスパフォーマンスの開催

現在、地盤工学会では、学会公認のFacebookに広報委員会が制作した「恋するフォーチュンクッキー地盤工学会 Ver.」がアップされています。この動画には茨城大学の学生の皆さんも参加されています。先般行われた地盤工学会関東支部研究発表会「Geo-Kanto」の懇親会において関東の学生達を中心となってパフォーマンスが行われました。そこで、交流会に参加する学生会員の方々を中心に「恋するフォーチュンクッキー北九州大会 Ver.」を実施しました。このダンスパフォーマンスを実施するに当たっては、大会前に茨城大学と福岡大学の学

生を中心に各大学にダンスの練習を促して頂きました。また、交流会当日にもリハーサルを行って本番に臨みました。本番では、会場に集まった学生たちのほとんどが舞台に集まり、会長も一緒になってパフォーマンスを行いました。交流会会場が一体となり大いに盛り上がり、非常に良いイベントとなりました。この様子は学会FacebookにUPされています。ぜひご覧頂ければと思います。

<https://www.facebook.com/jgspr> (7月19日)

2.3 名物料理と地酒の準備

北九州市観光協会とのタイアップにより、地元の酒造所の日本酒・焼酎を会場で振る舞うとともに、一部会場にて販売も行いました。また、門司に工場がある「ニッカウキスキー」の焼酎も地酒コーナーに並びました。また、食事は屋台形式で下関名物の「ふく刺し」を楽しんで頂きました。また、ご当地B級グルメである「焼うどん」、「焼きカレー」もホテルクオリティーで提供しました。

2.4 小倉祇園太鼓

今年は、大会開催直後に小倉で始まる祇園太鼓が披露されました。委員長永瀬英生先生の教え子がメンバーにいらっしや、祇園太鼓の歴史と解説付きの非常に良い公演となりました。

3. 情報宣伝方法と当日運営

交流会への参加を促すために発表会専用のHPとFacebook内にて積極的に交流会の情報宣伝活動を行いました。また、学生達独自のネットワークによる情報の拡散も功を奏し、交流会当日までの参加登録者数が予想定員を大幅に上回りました。また、交流会では、参加学生たちの胸に学生たちの一言アピールを書いてもらい、できるだけ正会員と交流できるチャンスを作る工夫を行いました。この一言アピールは正会員との会話のきっかけになったのではないのでしょうか。

4. おわりに

今回の交流会は当日申し込みを入れると500名(内学生120名)を超える方々に参加頂きました。実行委員会では当初学生を交流会に入れることに賛否両論ありましたが、結果的には本来学会の目的である良い交流会となり大盛況で終わることができました。また、学生達もダンスの効果もあり、沢山の友人と正会員との交流ができたようです。最後に交流会部会員に記して感謝を申し上げます。

(原稿受理 2014.9.1)